



国づくり 人づくり

号外

人類の進むべき道

人類の究極の目標は人類だけの存続と発展にあるのではなく、万類の共尊・共生・共育である

それは人類を越え、社会を越え、文明を越え、宇宙的なスケールでの万類の幸福であり、決して人類だけの幸福ではない

なぜなら地球上のすべての生き物は宇宙生命の同じ親から生まれた大きな家族であり、皆兄弟姉妹だからである

万類の幸福こそわれわれ人類が進むべき最尊の道である

CMF地球運動提唱者

国づくり人づくり財団理事長
木原秀成

福岡 東長寺でダライ・ラマ法王の祈願法会にてご質問

2018年11月22日、福岡市博多区の東長寺において、ダライ・ラマ法王の「平安・平和への祈りin福岡」21世紀を生きるための知恵の教え」が開催され、直接ご質問をさせていただきます。通訳者を通じてのお答えの内容を紙面にさせていただきます。



福岡 東長寺にて

木原秀成ご質問

「本日のさまざまなお教授ありがとうございます。広島から参りました蓮華院金剛寺の木原秀成と申します。お尋ねをします。」

人間の幸せというものは、物質的なものと精神的なものとのバランスが大事だと思うのですが、昨今のような経済グローバルバズムの中で、経済がどんどんどんどん精神世界を蝕んで、いわゆる格差社会になってきていると思うのです。

そういう中で、はたして宗教はこの経済グローバルバズムの貧富の格差をつくらせているようなものに対して、どの

程度対抗できるのか。

それと同じような精神的な活動が構築できるのか、現実には今は、悩んでおります。そういうところを指導いただければと思います。」

ダライ・ラマ14世法王のお答え

仏教における心の科学

「現在私たちが住んでいるこの世界の中におきましては、西洋社会の中でも非常に物社会的なものとなってしまし、たくさんのおき現代のものが向上されていっているわけです。」

そこで、最近、私たちの世界の中、この現代教育の中では、物思考という物質至高主義のような感じで、普通教育が与えられているような気がするわけです。

日本におきまして、物質的なものを向上させるということばかり考えてきたと思います。

つまり、物中心の社会・文化というようなものになっていってしまっているのではないかと思われます。

そこで、私たちの心がかき乱されているような時、そういった物だけで、私たちの心を静めるというようなことは難しいことになってしまっているのです。ですから、物質的な向上をはかるといふことだけではなく、この仏教の中のカテゴリーのひとつである心の科学という分野について、皆様方ご自身に、ぜひ、それを学んでいただきたいと考えています。

キリスト教の信仰

例えば、西洋のキリスト教社会などであるならば、神に対して祈願をする、信心をするということしか、あまり、実践方法というものは存在していません。もちろん、死と、観と呼ばれるような、このような修行もしないわけなんです。

ですから、そのような背景から考えてみるならば、私たちの仏教の仏典の中に既に説かれている、科学と心の科学の部分というのは、非常に古くから、このインドの習慣として育まれてきた、優れた知識となっています。

そして、皆様方、日本の方々も同じ、この仏教国であるわけです。

ですから、自分が自由に宗教を選ぶということもできますが、例えば、台湾など、私が訪問するということは、未だに、政治的な部分からなかなか難しいという状況にあるわけで、日本だけが、この自由な仏教の国という状況にあるのではないかと思っています。

そこで、皆様方にぜひ、していただきたいのが、自分の心の平和、内なる心の平和というものを築くための教育というものを、ぜひ、心の科学の分野から学び、それを、ごも達、そして、学生たちに伝えていっていただきたいと思っております。

すべての宗教に敬意を

インドの中では、昔からこの世俗的な観点を「セキュラー」という言葉が使われてきました。

これは決して宗教に反するという意味では無く、完全に、全ての宗教に対する敬意をもって接するという意味が含まれています。

そこで、70億人にわたる、地球全体に住んでいる全ての人達を包含して説くことのできる、世俗の観点に立った倫理観というものを教えていくということをしなければなりません。

しかし、宗教的な観点からのみに限定しますと、約10億人の人々が全く信心をしておられないので、全ての人達に教えることができなくなってしまいます。

そこで、私は世界各地をご訪問させていただいている時に、そのようなことに、益々関心を持っていただきたいと思います。最近では常にお話しているわけです。

内なる世界に目を向ける量子力学

私たちは今まで外界の物ばかりをみて、それを向上させるということばかり考えてきました。

そうではなく今度、私たちは内なる世界というものに目を向けて、自分の物の考え方をより良く変えていこうということによって、自分の心の平和を構築する方法を学んでいただきたいと考えているわけで、最近では量子力学に携わる科学者の方々と私は対話などをしております。

あるインドの原子力などの、非常に優れた科学者の方々が、西洋社会においては量子力学というものの考え方は、非常に新しいものであるわけですが、インドにおきましては、本当に何千年もの前から古代インドの智慧として伝わってきたものであるということをお私自身に話してくれたことがあります。

物質というものをどこまでもどこまでも分割していても、最終的にこれ



国づくり人づくり財団
理事長 木原秀成

以上分割することができない微粒子にいたるというようなことを知っておられるわけですから、全ての日常生活の中において、この実体性にとらわれる、というようなことがより少ないのではないかと、この風にお見受けし、実際にそのような量子力学の学者の方々がそういうことを私に話してくださっているわけです。

決して宗教だから学ぶということなく、量子力学的な背景から、そのような実体性にとらわれる心を減らしていくということも、大いに可能だと思います。

内なる世界に目を向ける

ですから、私たちが成すべき事というのは、内なる自分の物の考え方をより良く変容させていく、ということにあります。

キリスト教徒は、神に祈願するのみにということになってしまいますから、死と観の修行をする、そして、瞑想するという機会もあまり得られていないようです。

繰り返しますけれども、キリスト教のような宗教の場合には、ただ神に祈願するというだけで、自分の心の中で何らかの事をよく考えるというようなことはあまりなされていません。そのような考え方もとづくならば、この70億の人間たちが、ひとつの神を信じさえすれば良いとばかりかねませんので、あまり私たち人間に役に立たないのではないかと、私は考えています。しかしながら、全ての宗教は同じように、愛や慈悲の心を高めるべきであるということ、説いているわけです。

21世紀の仏教徒とは

一方で宗教が持っているそれぞれの哲学的な見解というものについて考えてみますならば、インドにおきまして



は、古代インド哲学の中で育まれてきた知識というものには、非常に広大で深遠なるものが含まれています。

そこで、皆様方にぜひ、この21世紀の仏教徒になっていただきたいということ、私は世界各地どこを訪ねてもお話ししています。

21世紀の仏教徒とは、どのような意味かと申し上げますと、仏教というものは何なのか？ どのような教えなのか？ ということを、まず最初の段階において、しっかりと学ぶということが必要とされるわけです。

そして、それにもとづいて、教えというものに確信を得られたならば、その確信にもとづいて仏教の教えに従うということをしていくわけです。

ですから、単なる信心にもとづいて積尊の教えであるからといって鵜呑みにするということではなく、自らの知性を働かせて、その教えについて考えた上で、それが本当だと確信を持った上で、信心をしていくという方法論をとるべきだと考えています。

仏教の教えというものがどのようなものかも知らずに、仏教のことを勉強

せずに、ただ仏教徒であると言うのであるならば、本当に古い時代の仏教徒となってしまうわけです。

鋭い修行者

このように経典類をきちんと勉強するということをしていく上におきまして、鋭い知性を持った修行者のとるべき修行というものと、どちらかというところ、信心だけに頼っている鈍い知性しか持っていない修行者の道というものに、大きく分けられると思うわけです。鈍い修行者であるならば、あまり、このブッダの教えを分析したり、調べたり、考えたりすることができなくなってしまう。

常に、鋭い修行者のとるべき道というものに従うべきであり、一方では、単なる信心にもとづく宗教をしている方たちに対しても、心からの尊敬を持つということも忘れてはなりません。

この世界におきましては、様々な宗教が存在しています。けれども科学者たちと対等に対話ができるというのは、おそらく、ナーランダー僧院の伝統を引き継ぐ私たち仏教徒だけではないかと思っています。

それは何故かと言いますと、ナーランダー僧院に伝わる伝統というものが、まず、ブッダのお言葉であっても、それをまず疑ってかかり、分析して正しいと分かった上で信心をするという、このような科学的な方法論を取り入れているからです。

ヒマラヤの麓に住んでいるたくさんの方々が、仏教徒として全く同じ立場にあるわけですが、そういった方々はあまり勉強をするというようなことではなく、信心に従っていただけです。

そこで、私はそういった方々に対して、21世紀の仏教徒になって欲しいということをお話しています。

仏教を勉強する場

どのようなものであっても構いませんが、小さくても大きくても、その寺の中におきまして、仏教の勉強をする場として、そのお寺を、僧院を使っていくということが、非常に良い考え方であると、私は思っているわけです。

最近では、様々な僧院の中において仏教学習センターというようなものが既に設けられ、始まっている時代に入っています。

ただ般若心経を唱えるということではなく、その般若心経の意味を解説するということ、これをされ、そして、積尊の説かれた教えとは一体どのような教えなのかということ、檀家の方々にお解きになられましたならば、おそらく、大きな御利益を与えることができるのではないかと、このように考えている次第です。

空念仏では駄目

毎日般若心経を唱えておられる方々は、非常に多いと思いますけれども、唱えているだけで、意味は知らないということではいけません。

もともとサンスクリット語で書かれた仏典ですが、自分の国の言葉で翻訳しませんと、意味もわからず、ただお唱えするということになってしまいうわけです。

そして、最近、私が様々なところでお話しさせていただいておりますことは、私たちは健康を維持するために衛生観念を維持していかなければならないということが、古くから教えられてきたわけです。

今こそ感情面の衛生観を

今、私たちの時代において必要とされているのは、感情的な面における清らかさを保つ、つまり、感情面におけ

る衛生観念を教えるということ、学校教育や普通の教育の中で、ぜひ取り入れていただきたいと、私はこのように考えているわけです。

そこで、本日は東長寺、この素晴らしいお寺に皆様方と共に集まり、このようなお話をさせていただき、慰霊法要を営むということも無事満了いたしましたので、私は心から嬉しく思っております。

そして、このようなことができたことを、協力していただきました全ての方々に、御礼を申し上げます。

小生の千思万考

ダライ・ラマ法王のお答え通りだが、それは無菌室社会の中ならで、現実にはバイ菌に汚染された社会（科学至上主義の経済グローバリズム）ゆえ、その乖離をどう埋めるかのお答えが欲しかった。

仏教に限らず宗教は、この現実との乖離を埋められる明確な対策を講じられなければ、経済グローバリズムに呑み込まれて廃棄されかねない。

小生は、微力ながらその対策を講じているが、現在の宗教の危機だと思つ



福岡市博多区 東長寺

大同元年(806年)、弘法大師空海様が唐での修業ののち帰国し、博多滞在の折に密教東漸を祈願して建立したと伝えられる